

「情報」の授業について

情報Ⅰ 第Ⅰ回
(オリエンテーション)

<http://www.johoka.info/>

このスライドについて

1. 「情報」という教科について
2. 「情報 I」の授業
3. 町田高校での授業
4. 授業のルール
5. 評価について
6. その他

「情報」って……

「情報の授業」=「コンピュータの授業」!?



正解：「コンピュータ等の情報機器を効果的に使い、
情報そのものを色々な角度から学ぶ教科」



「コンピュータ」は「目的」ではなく「手段」

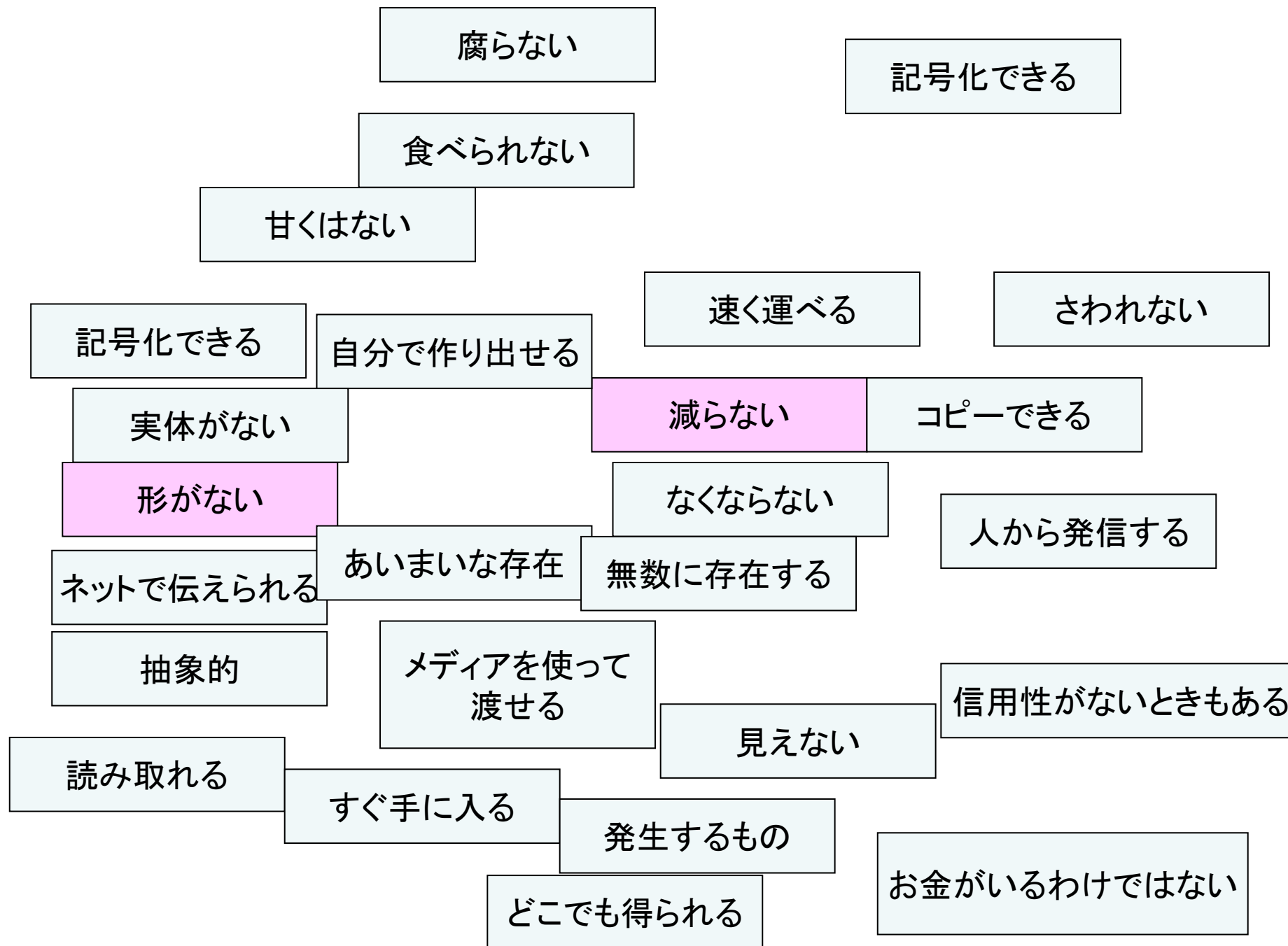
「情報」って・・・

- ・ 「情報」がなかったら・・・
 - 試験の範囲、お店のセール、電車の遅延、・・・
- ・ 自分の行動の「元」「意志決定」となるもの
- ・ 情報がより一層「価値のある」ものへ
 - 情報通信ネットワークの発達
 - 情報格差、情報弱者なんていう言葉も・・・
- ・ では、「情報そのものが持つ特徴」って、何？

「情報」と「もの(ケーキ)」の違い

「ケーキは……ですが、

情報は……です。」



情報	もの(ケーキ)
<ul style="list-style-type: none">▪ 減らない<ul style="list-style-type: none">-いつまでも残り続ける	<ul style="list-style-type: none">▪ 食べたら無くなる
<ul style="list-style-type: none">▪ 形がない<ul style="list-style-type: none">-人によってとらえ方が変わる-「誤解」が生じる場合がある	<ul style="list-style-type: none">▪ 形がある<ul style="list-style-type: none">-見えるので誤解が少ない
<ul style="list-style-type: none">▪ 複製されて伝わる<ul style="list-style-type: none">-自動的にどんどん増えていく-どこで複製されたかわからない-複製されたのかもわからない	<ul style="list-style-type: none">▪ ケーキそのものが運ばれる<ul style="list-style-type: none">-自動的にには増えない
<ul style="list-style-type: none">▪ 瞬時に伝わる<ul style="list-style-type: none">-特に情報通信ネットワーク上では、遠隔地でも瞬時に伝わる	<ul style="list-style-type: none">▪ 運ぶのに手間がかかる

ソーシャルメディア

- ・ 利用者どうしが意見を交換したり、情報共有したりできる「ツール」。
- ・ 情報機器のパーソナル化により、直接的に個人や組織がつながり、やりとりできる。
- ・ SNS上のサービスとして提供されることが多い
 - ショートメッセージ、電子メール、メーリングリスト
 - 電子掲示板
 - チャット
 - ブログ、マイクロブログ
 - 画像、動画共有、オンラインゲーム

ソーシャルメディアの特性

1. 場所や時間の制約がない（「いつでも、どこでも。」）
 - 「すぐに返事が来ない」のは当たり前。
2. 主に文字でのコミュニケーション（表現手段の偏り）
 - 相手に伝わる「情報の量」は実はそれほど多くはない。
3. 参加者に一斉に連絡可（同報性・即時性）
 - 一度発信した情報を取り消すことはまず不可能。
4. 検索ができ、情報が蓄積される（蓄積性）
 - 悪意のある情報や個人情報も、ずっと留まり続ける。
5. 実名ではなくハンドルネームが多い（匿名性）
 - 無責任な書き込みや誹謗中傷、なりすましの可能性。
 - 実はほとんどの場合が「特定」されてしまう。

絶対に守って欲しいこと

- ・ 他人を傷つける言葉や画像などは、絶対に発信してはいけない
 - 一度発信した情報は取り消せず、あっという間に広がるだけでなく、ずっと残り半永久的に相手を傷つけ続ける (=永遠の「いじめ」)。
- ・ SNSでも、実は「閉じた世界」ではない!
 - 何らかのきっかけで、必ず現実社会で表面化します。「自分たちだけ」は有り得ません。いつ表面化しても恥ずかしくないように。
 - 外部に接続されている以上、ウイルスや不具合、誤操作により、内容が外部に流出することも!

1 なぜ情報について学ぶのか

- ・ 「情報」を学ぶとは
 - 日常生活や学校生活を豊かにすること
 - 社会的な課題も解決することが可能
 - 情報や情報技術は、現代社会で既になくてはならない存在
- ・ 問題発見・解決のために
 - 情報や情報技術が持つ科学的な側面を理解し考える
 - ・ 「形がない」「消えない」「複製が容易」「瞬時に伝わる」
 - ・ フェイクニュース、誹謗中傷、ネットいじめ、詐欺
 - ・ 選択的接触、フィルターバブル、確証バイアス
 - ・ 依存症

1. 「情報」という教科(1)

- ・ 学習指導要領(平成30年告示)
 - 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」
 - 情報活用能力は、それら学習の基盤となる資質・能力の一つ
 - 教科等横断的な視点に基づき育成
 - 「情報 I」は、その育成の中核を為す教科・科目
- あらゆる教科・科目の「基礎・基本」の一つ

1. 「情報」という教科(2)

- ・ 「主体的に情報を選択・収集・発信できる力」
- ・ 「社会の一員として、情報社会に参画する上での望ましい態度」
- ・ 「情報を活用する上での知識や技能の定着と、科学的な見方、考え方」

2. 「情報 I」の授業

教科書P.2 もくじを見てみよう

序章 情報社会に生きるわたしたち

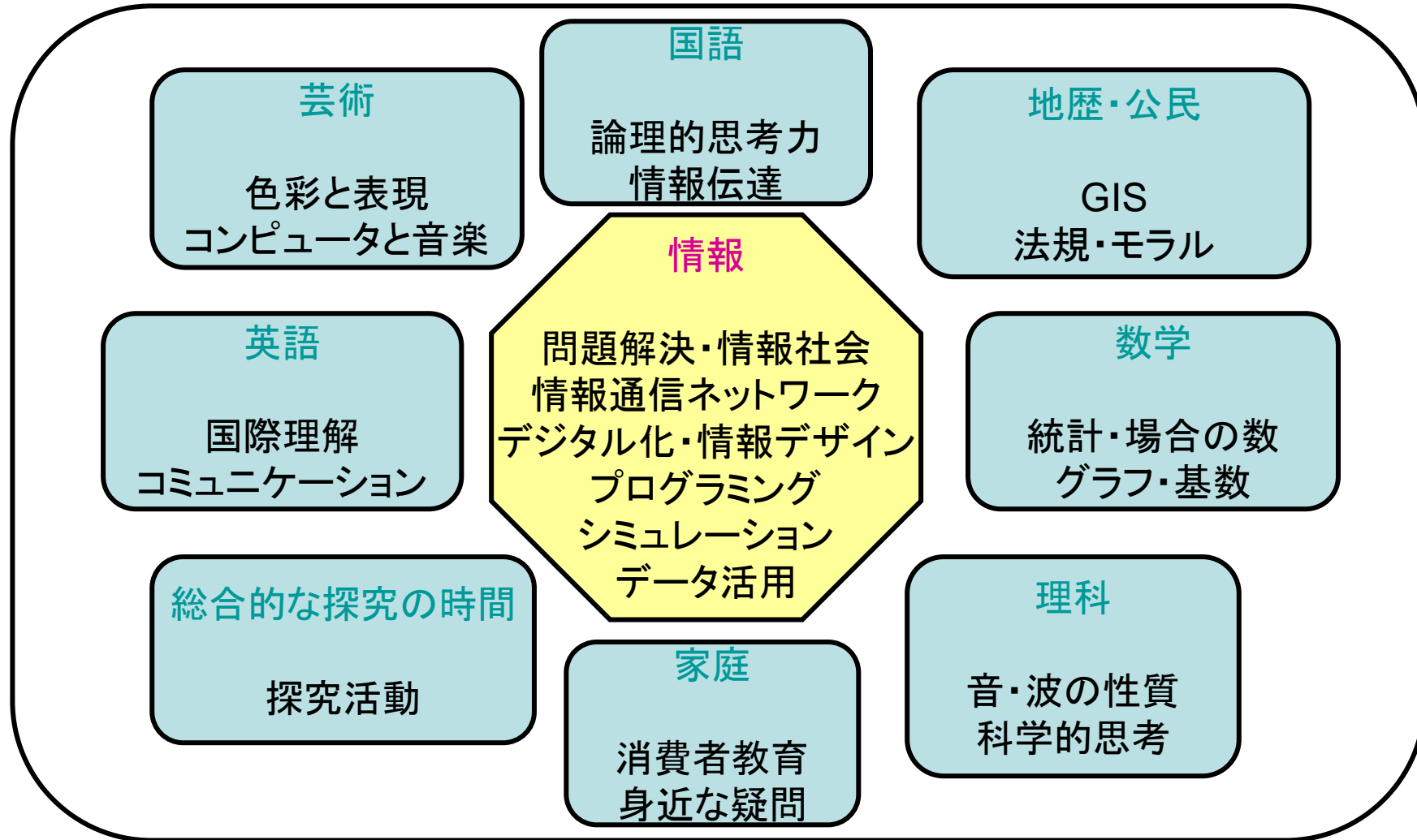
第1章 情報社会の問題解決

第2章 コミュニケーションと情報デザイン

第3章 コンピュータとプログラム

第4章 情報通信ネットワークとデータの活用

2. 「情報」の位置づけ



3. 町田高校での授業(1)

(Web「[年間授業計画表](#)」参照)

3つの大きな柱

◎科学的な理解を通して情報社会を考える

「なぜ、~するべき? どうして、~してはいけない?」

◎問題解決は問題の発見から

「何が『問題』? どうすれば『解決』できる?」

◎情報発信を切り口に

「相手にわかりやすく伝えるには?」

3. 町田高校での授業(2)

自分の頭で考え、

自分の頭で判断し、

自分の言葉で言う。

「わかりません」「同じです」(=思考放棄)はダメ!

→ 「わからない」なりに、自分の「考え」を言いましょう。

「同じこと」でも、「自分の言葉」で言いましょう。

3. 町田高校での授業(3)

年間計画(1学期)【理論と問題解決の基礎】

第2章

コミュニケーションと情報デザイン: 基礎

第1章 情報社会と問題解決

基礎技能・知識(PCやネットワークの利用とマナー)

3. 町田高校での授業(4)

年間計画(2・3学期)【問題解決の実践と情報社会】

第4章

情報通信ネットワークとデータの活用

第3章

コンピュータとプログラミング

第2章

コミュニケーションと情報デザイン: 実習

1学期の基礎技能と知識・問題解決能力

4. 授業のルール(1)

1. 時間厳守!!

チャイムとともにPC教室で出席をとる。

その時に席についていない者は遅刻

「切り替えと集中」:時間を大切に!

2. 土足厳禁!!

入り口で上履きを脱ぎ、下駄箱へ入れる。

スリッパ等を持参しても良い。

3. 飲食厳禁!!

弁当や飲み物はもちろん、お菓子、ガムなどは一切認めない。

飲み物や弁当などは、カバンの中にしまう。

4. 授業のルール(2)

4. 自ら考え、自ら解決するよう努力する。

集中して授業を聴き、必要だと思えるものは各自ですぐにメモを取る。

忘れても自分で対処できるように。「後で聞けばいい」はダメ!

特に居眠り厳禁!

(「問題解決」を学ぶ教科なので自分自身で解決できるよう頑張ろう!)

→ 情報科での「自主・自律」

5. 教科書・副教材を忘れずに持ってくる。

持ち物には必ず名前を!!

5. 評価方法(1)

- ・ 単元ごとに、
 - 知識・技能
 - 思考力・判断力・表現力等
 - 主体的に学習に取り組む態度の3観点について評価する。
- ・ 学期末には、その途中経過についても加味して評価する。

5. 評価方法(2)

	考查	試験	内容
1学期	中間	×	課題・レポート・考查 ※小テストを行うこともある
	期末	○	
2学期	中間	×	課題・実習・レポート・考查 ※小テストを行うこともある
	期末	○	
3学期	学年末	×	課題・実習・レポートほか

これらの他に、状況に応じて加点・減点要素を含め判断する。

6. その他

- ・ PC教室の使い方は、次回以降説明します。
 - 授業は全てPC室で行います。
- ・ Classiのグループでお知らせします。
 - マメにチェックしてください。
 - 「見ました」を忘れずに!

7. 次回までの課題

- ・ ClassiNOTEの課題に取り組んでください。
 - 情報 I → 練習 → 生徒向け練習用 に、自由に何か書き込んで!
 - 必ず、説明を「良く読んで」取り組むこと。
- ・ 教科書pp.10~11 「3 学習の前に確認しよう」に取り組む
 - 教科書に直接記入して結構です。
 - 「C」や「D」がついたものは、中学校「技術・家庭」の教科書等で、良く復習しておきましょう。